



◎昭和十二年度土木費豫算

目下第七十議會に提案中に係る昭和十二年度内務省土木費豫算の概數は左の通りである。既定經費と合せて總額六〇、〇〇〇、〇〇〇圓となる。

治水事業費	四、六八三、六〇九
事務費	一八二、六五八
河川費	二、〇一六、一七二
砂防費	二、四八四、七七九
中小河川改良助成費	一、〇五三、〇〇〇
水害防除施設費	四〇〇、〇〇〇

河水統制調査費	二五〇、〇〇〇
土木事業調査諸費	五二、六五四
沖繩振興事業費 (國場川改修費)	五〇、〇〇〇
河川關係計	六、四八九、二六三
道路改良費	一〇、一〇七、六五七
道路改修及助成費	四、七四三、〇〇〇
國道改良費	四、三五七、六五七
國道改良繼續費	一、〇〇七、〇〇〇
沖繩縣振興道路改良費	二五〇、〇〇〇
鹿兒島縣大島郡 振興道路改良費	九〇、〇〇〇
水道補助費	一一、〇〇〇
道路關係計	一〇、四五九、六五七
港灣改良費	一、五二二、〇〇〇
地方港灣改良助成費	二八五、〇〇〇
沖繩縣振興事業費	三〇、〇〇〇

鹿兒島縣大島郡
振興事業費

二〇、〇〇〇

門司港修築費還付金

六、三三三

敦賀港修築費還付金

二八、五六六

港灣關係計

一、八九一、九三九

合 計

一八、八四〇、八五九

◎内務首腦部其他の交迭

廣田内閣は濱田國松氏の質問演説が導火線となつて崩壊し宇垣内閣は成立するを得ず大命林銑十郎氏に降下し二月二日林内閣が成立した即ち陸軍大將林銑十郎氏内閣總理大臣となり結城豐太郎氏大藏大臣兼拓務大臣に陸軍中將中村孝太郎氏陸軍大臣兼對滿事務局長總裁（後二月九日陸軍大將杉山元氏に交迭）に海軍中將米内光政氏海軍大臣に、檢事鹽野季彥氏司法大臣に、山崎達之輔氏農林大臣兼遞信大臣（遞信大臣は二月十日伯爵兒玉秀雄氏專任）に海軍造兵中將伍堂卓雄氏商工大臣兼鐵道大臣に任ぜられ内務大臣は潮

惠の輔氏退かれて河原田稼吉氏が任ぜられた。二月十日に至り内務關係に於ては次官湯澤三千男氏警保局長菅場軍藏氏警視總監早川三郎氏石川縣知事生駒高常氏辭職し、愛知縣知事篠原英太郎氏内務次官に島根縣知事兒玉九一氏神社局長に、岐阜縣知事坂千秋氏地方局長に地方局長大村清一氏警保局長に、社會局部長赤松小寅氏土木局長に、人事課長成田一郎氏社會局部長に東京府知事横山助成氏警視總監に、神社局長館哲二氏東京府知事に、土木局長岡田文秀氏長崎縣知事に、長崎縣知事田中廣太郎氏愛知縣知事に、内務事務官宮野省三氏岐阜縣知事に、北海道廳部長本間精氏秋田縣知事に、秋田縣知事兒玉政介氏石川縣知事に、大阪府書記官三樹樹三氏島根縣知事に轉ぜられ、同月十三日土木局河川課長新居善太郎氏は人事課長兼祕書官に神奈川縣總務部長中野與吉郎氏は土木局河川課長に夫と轉任せられた。河原田内相、篠原次官、赤松土木局長、中野河川課長諸氏の略歴は左之通りである。

内務大臣 河原田稼吉氏

氏は明治十九年十一月十三日岡山縣に於て誕生、福島縣南會津郡伊南村河原田盛美氏の養子となる。

明治四十二年七月一日東京帝國大學法科大學政治科卒業、同年八月十三日內務省事務囑託となる。同年十一月二日文官高等試験合格證受領、同四十四年四月十八日福島縣事務官となり、大正二年六月十三日福岡縣理事官に轉じ後視學



河原田 裕吉 氏

官となる、同年十一月五日內

務書記官警保局警務課長とな

る、同三年五月六日內務省參

事官を兼任、同四年七月一日

熊本縣警察部長に轉じ同五年

四月二十八日長崎縣警察部長に轉じ翌六年八月二十五日內務省書記官、同十一年六月十四日內務事務官兼內務大臣祕

書官となり同年七月十二日には內務監察官となり次で十一

月一日內務省社會局部長となり同十二年四月二十六日瑞西

ジュネーヴ第六回國際勞働總會に政府代表委員として出席

且歐米各國に出張を命ぜらる、歸朝同十五年四月一日社會

勞働部長となつたが昭和三年六月二十六日臺灣總督府總務

長官となり同六年八月三日依頭退官、同年十二月十三日內

務次官となり、中橋內相の下に次官となり次で犬養兼攝內

相鈴木內相を助け同七年二月十三日退官後協理會理事とな

りて本年二月二日林內閣に入りて內務大臣となる

內務次官 篠原 英太 郎 氏



篠原 英太 郎 氏

氏は長野縣西筑摩郡木祖村に

明治十八年十月十日誕生、四

十四年七月一日東京帝國大學

法科大學卒業、同年七月二十

一日山梨縣屬となる、大正元

年十一月文官高等試験合格同二年七月四日長崎縣警視、同

三年四月二十八日石川縣理事官、同七年十一月十八日大阪

府理事官となり同八年九月二十三日朝鮮總督府事務官兼朝

鮮總督府參事官となる、同十一年三月二十六日歐米各國へ

出張を命ぜらる、同十三年三月十一日內務監察官兼內務參

事官同年十二月二十日內務書記官、大臣官房都市計畫課長

同十五年九月二十八日北海道廳部長に轉じ昭和二年五月十七日山形縣知事となり同四年十月九日文部省普通學務局長に轉じ同六年十二月十八日出て岡山縣知事同九年八月十一日愛知縣知事に轉じ本年二月十日内務次官となる。

土木局長 赤松 小寅氏

氏は明治二十三年四月三日靜岡縣警田郡見付町に生る。

大正四年七月十三日京都帝國大學法科大學政治科卒業同四年十月二十四日文官高等試驗合格同五年二月七日長崎縣工場監督官補となり翌六年十一月六日長崎縣屬となり同七年二月二十六日長崎縣理事官に昇任、同八年十二月十九日三重縣理事官に轉じ同十年六月四日山梨縣理事官となりて視學官に補せらる、同十一年十一月一日内務省社會局事務官となり、同十二年八月二十七日瑞西ジュネーヴ第五回國際勞働總會政府代表委員隨員を命ぜらる、次で歐米各國に出張翌十三年五月二十六日には再度瑞西ジュネーヴ第六回國際勞働總會政府代表委員隨員を命ぜらる。同年九月歸朝同十二月二十日福井縣書記官警察部長昭和二年五月十七日山

口縣書記官警察部長となり、同年五月二十一日同縣内務部長同四年七月二十日長崎縣書記官内務部長に轉じ、同六年十二月十八日高知縣知事に榮轉翌七年三月四日内務省社會局長となる、同八年四月瑞西ジュネーヴ第十七回國際勞働總會政府代表委員同十年四月復第十九回勞働總會政府代表委員として出席本年二月十日内務省土木局長となる。

内務省土木局河川課長 中野與吉郎氏

氏は明治二十七年八月二十四日滋賀縣に生る、大正六年九月十一日東京帝國大學法科大學入學同八年十月二十五日高等文官行政科試驗合格同九年七月十日大學卒業翌九年七月二十四日大阪府屬兼警部となり同十年十二月十七日大阪天王寺警察署長となる、同十一年十二月二十一日中野と改姓同十二年二月十五日監督官となり翌十三年十二月二十日地方警視となり、昭和四年一月三十日地方事務官千葉縣勤務同年八月二十七日神奈川縣に轉任翌五年八月二十八日島根縣書記官學務部長、同六年十二月二十四日群馬縣書記官警察部長同七年六月三十日福井縣書記官警察部長、同九年

三月十九日宮城縣書記官警察部長に歷任同十年一月十九日
内務省書記官警保局警務課長同十一年四月二十五日神奈川
縣書記官總務部長に轉じ本月二月十二日内務省書記官土木
局河川課長となる。

◎新舊土木局長送迎會

二月十五日東京丸ノ内常盤に於て新舊土木局長の送迎を
兼ね本會理事會を開いた、席上水野會長より岡田前常務理
事に對し終始非常なる御盡力に預り深謝する次第である尙
向後共事業の達成に御協力を切望する、又赤松局長に對し
就任祝賀の意を演べ例に依り常務理事として御盡力を請ふ
次第である。尙御兩君共時局柄國家の爲健康に留意せられ
職責遂行に力められんことを希ふと歡送迎の挨拶あり、こ
れに對し岡田、赤松新舊常務理事より各々謹嚴なる挨拶裡
に情味豊かなる答辭ありて左記諸氏と食卓を圍み歡談時餘
の後散會した。

水野會長、山田經費部理事、中川(正左)理事、牧理事、

中川(吉造)理事、青山理事、笈理事、物部理事、阿部道
課長、佐藤技術課長、細田内務事務官、近藤、谷口兩土木
事務官、加藤内務技師、都筑專務幹事以上。(都筑)

◎内務省土木試驗所談話會

從來土木試驗所では、毎年二回(常例は第二、第四金曜
日)談話會を開催し本所獨自及び内務省關係の土木工事に
關する各種試驗研究の計畫經過その成績の發表及び討議等
を行つて居たが、本年より廣く内務省關係の技術家諸氏の
出席を求め話題に就ての討議及び廣く意見の交換等を行ふ
事にした。

今年一月に於ては、二十二日(第四金曜日)午後二時よ
り四時に至る間次の話題に就て第四百四十五回談話會を開催
した。

1. 利根川河口附近の工事が河の流況及び砂洲の移動に
及ぼす影響に就ての模型實驗(松尾春雄技師)
2. 現場コンクリートの強度に及ぼす季節、ミクサーの

容量の影響（松村孫治技師）

此の會に於ては土木局及び東京出張所より小澤、金子、宮田、秋草技師、山本、藤森、山内工學士諸氏の出席あり此れに試験所の各技師、囑託及び工學士、技手等合せて三十餘名の出席あり報告に就ての有益なる意見の交換があつた。

本會は常例として毎月第二、第四金曜日の午後二時よりの豫定であるが、二月は十二日（第二金曜）及び二十三日（火曜）の午後二時より本所の講堂で之を行ふ豫定である。

なほ、本會の話題は常例として第二、第四月曜日に土木局、東京土木出張所其他の關係方面に通知するを以て在京の關係諸氏は勿論、この際上京せる地方の土木技術家諸氏の出席をも希望するものである。

◎滿洲道路研究會講習會開催

滿洲道路研究會主催の下に第二回道路講習會を三月中旬新京に於て開催することとなつた。其の趣意書及はプログ

ラムは次の通りである。

第二回道路講習會開催趣意書

吾滿洲道路研究會ハ創設以來既ニ一年有半全會員ノ絶ヘザル奮闘ト努力トニヨリ會員數四百ニ垂ントシ毎月講演會ヲ開催シテ智識ノ交換ト相互ノ親睦ヲ圖ル外本年五月以降會誌ヲ發行シテ會員ノ研究發表機關タラシムル等着々トシテ使命ノ貫徹ニ努メツ、アリ而シテ本年一月中旬第一回道路講習會ヲ開催セルニ際シ全滿各地土木技術者各位ノ熱心ナル参加ヲ得テ豫期以上ノ効果ヲ收メ聊カ斯界ニ貢獻スルトコロアリタルヲ信ジ將來本講習會ノ定期的開催ノ必要ヲ痛感シ本會ハ茲ニ再ビ各方面ノ協賛ヲ乞ヒ別紙プログラムノ通り第二回道路講習會ヲ開催スルニ決定セリ願クバ全滿土木技術者各位多數ノ参加ヲ得テ本講習會ヲシテ益々有意義タラシメントヲ希望シテヤマズ

康德參年拾壹月

滿洲道路研究會

第二回道路講習會プログラム

滿洲道路研究會

期日 自康德四年三月十日 五日間
至同 三月十四日
會場 新京記念公會堂

第一日 三月十日(水)

會 員 着 席 (10,000))
開 會 之 挨 拶 (10,000-12,000) 會 長 直木倫太郎
祝 辭 (12,000-15,000) 民政部大臣 呂榮賓
同 見 國 防 上 道 路 (12,500-15,000) 交通部大臣 李紹庚
中 食 (13,000-14,000) 關東軍司令 員 交 涉 中
道 路 構 造 規 準 (14,000-15,000) 土木局第一 工務處第一 長 江 守 保 平
道 路 構 造 (15,000-17,000) 土木局第一 工務處第二 長 藤 原 健 二
第 二 日 三 月 十 一 日 (木)
日 本 現 狀 於 路 上 (10,000-12,000) 內 務 技 師 交 涉 中
土 工 二 就 士 務 處 長 原 口 忠 次 郎

中 食 (13,000-14,000)

道 路 ノ 踏 査 測 量 二 就 テ (14,000-15,000)

砂 利 碎 石 二 就 テ (15,000-17,000)

第 三 日 三 月 十 二 日 (金)

朝 鮮 現 況 於 路 上 (10,000-12,000)

都 邑 計 畫 二 就 テ (12,000-15,000)

中 食 (13,000-15,000)

寒 中 混 凝 土 二 就 テ (14,000-15,000)

濕 地 二 就 テ (15,000-17,000)

第 四 日 三 月 十 三 日 (土)

瀝 青 簡 易 鋪 裝 二 就 テ (10,000-12,000)

滿 洲 河 川 異 性 (12,000-17,000)

中 食 (13,000-14,000)

滿 洲 國 土 木 法 規 則 概 要 (14,000-15,000)

土木局齊々 哈爾建設處 工事科長 吉村富之助

土木局第一 工務處技佐 米田 正文

朝鮮總督府 技師 交 涉 中
土木局第 二工務處 長 近藤謙三郎

水力電氣 局技佐 內 田 弘 四

水力電氣 局技佐 埤 恒 照

滿鐵產業部 交通科參事 古 味 淵 肇

電力電氣 局技士 後 藤 憲 一

土木局總務 處企畫科長 堀 內 春 宗

土木局第二 工務處長

土木局總務 處企畫科長

閉會之挨拶 (二五、三六、〇〇) 會 長 直木倫太郎

懇親會 (於記念會堂一八、〇〇)

第五日 三月十四日(日)

土木工事ニ關スル
映畫大會 (一〇、〇〇三、〇〇〇)

中食 (三、〇〇一、四〇〇)

新京附近見學 (二四、〇〇一、七、〇〇〇)

◎第八回國際道路會議提出報告書作製委員會

○第五部小委員會

第五部小委員會は壹月貳拾七日並に二月五日の兩日午後五時より丸の内鐵道協會に於て開催、主査小澤委員以下熊野伊藤、島田、金子の各委員、都筑幹事出席、議題第五の内(B)照り返し度又は路面の光り吸收率(人工照明の場合)の見地より見たる車道鋪裝の研究並にその標準化の調査研究方法に就て慎重審議し、三月中に原案を作製することに決定、午後八時散會せり。

○第二部委員會調査要項

第二部委員會は二月十六日午後五時より丸の内鐵道協會に開催、岩澤委員長、加藤主査以下西川、河合、花房、高橋、渡邊、森、松浦、黒澤、福島、遠藤の各委員都筑幹事出席議題第二ミニムヘン會議後に於て車道築造及維持に用ひたる、(A) タール、(B) アスファルト (C) 乳劑の準備及使用に關する進歩についての報告書作製に就て左記要項に依り第七回國際道路會議後に於ける進歩發達を調査研究することとし各委員の分擔を決定し、四月中旬までに原案を作製することを申合せ、午後八時散會せり。

調 査 要 領

第一章 本邦に於ける鋪裝用瀝青質材料に關する調査

第一節 概 説

第二節 本邦に於ける石油アスファルトの生産高

第三節 本邦に於ける瀝青乳劑の生産高

第四節 本邦に於ける鋪裝用タールの生産高

第五節 本邦石油アスファルト生産に關する要項

第六節 本邦石油アスファルトの原料の種類及性質

第七節 本邦石油アスファルトの種類及性質

第八節 本邦瀝青乳劑の性質

第九節 本邦鋪裝用タールの性質

第十節 結論

第二章 アスファルトコンクリート鋪裝

第一節 沿革

第二節 本邦に於けるアスファルトコンクリート鋪裝の

特徴

第三節 構造

第四節 材料

第五節 混合物の組成

第六節 混合作業

第七節 鋪設作業

第八節 輾壓回数と混合物の密度との關係に關する試験

第九節 鋪設直後の鋪裝路面切取驗體の試験成績

第十節 交通に依る鋪裝路面の變化

第十一節 路面の破損

第十二節 修繕方法

第十三節 東京市に於けるアスファルトコンクリート鋪

裝の修繕費統計

第十四節 滑止瀝青鋪裝

第三章 シートアスファルト鋪裝

第一節 沿革

第二節 本邦に於けるシートアスファルト鋪裝の特徴

第三節 構造

第四節 材料

第五節 混合物の組成

第六節 混合作業

第七節 鋪設作業

第八節 鋪設直後の鋪裝路面切取試験成績

第九節 交通に依る鋪裝路面の變化

第十節 シートアスファルト鋪裝路面の破損

第十一節 シートアスファルト鋪裝の修繕方法

第四章 簡易瀝青鋪裝道

第一節 簡易瀝青鋪裝の種類構造並に工法の概要

第二節 沿革

第三節 東京市に於ける表面處理

第四節 本邦に於ける表面處理

第五節 多層式乳劑塗裝

第六節 乳劑滲透マカダム

第七節 混合式乳劑鋪裝

第八節 特殊簡易乳劑鋪裝

第九節 特殊簡易瀝青鋪裝

第十節 結論

◎近刊の圖書雜誌

○帝國鐵道協會會報(三八卷一號)

(英國道路交通に關する統計)

セメント界彙報(三四七號)

(工學博士内田祥三氏「現場コンクリート試験」)

○土木學會誌二三卷二號)

(内山新之助氏、高橋逸夫氏「大船跳開橋工事報告」)

○三田學會雜誌(三一卷一號)

奥井俊太郎氏「人口構成に現はれた地域性」

○大阪商工會議所月報(二月號)

(川上彌三郎氏「交通問題に對する商工會議の職能に就

て」)

○都市問題(二四卷二號)

(鈴木武雄氏「地方信用金庫創設論、後藤悌次氏「東京

市電、地下鐵、青バス共同經營所案に就て」)

○斯民(三二卷二號)

(數藤鐵臣氏「埼玉事件と其の教訓」)

○法律時報(九卷二號)

(後藤清氏「勞働組合法をめぐる鬭争」)

○技術日本(一七〇號)

(植田茂氏「濱職と談合について」)

○臺灣技術協會誌(創刊號)(小川亨氏「代用燃料に就て

荒勝文策氏「原子人工變轉の話」)

○大大阪(一三卷二號)

○竹中龍雄 公企業法人について

○公園緑地 (創刊號)

(横山信二氏 街路樹に就て)

○警察協會雜誌 (四四一號)

(高橋房夫氏 或る巡查の日記)

○工事畫報 (一三卷二號)

(熊田隆治氏 兩羽橋架換工事、後藤土木課長 和歌山縣に於ける最近の混凝土橋「安諦橋」廣橋、切目橋、秋津橋、大石土木部長 松島觀光道路、興味深い議事堂の數字的見方)

○觀光聯盟 (一卷二號) (市川八郎氏 ノートから「觀光事業についてのある示唆」)

○三田學界雜誌 (三一卷二號)

(増井幸雄氏 支那に於ける道路建設に就て、奥井復太郎氏 身分構成に現はれた地域性、野村兼太郎氏 維新當時における品川宿の西郷、加田哲二氏 ラスキ歐羅巴自由主義の發達)

○セメント同業會道路部パンフレット (四四號)

(古牧兵助氏 道路鋪裝版としてのコンクリート試験報

告)

○乗合自動車 (一一卷二月號) (省營バスに關する特輯)

初聲

魚見へて釣れぬ竿なり春の水
葉屑よどむ汀よ春の水邊草
朱けの塔を宿して春の水廣し
踏み込る小草や春の根なし水
投げ釣瓶そのまゝ露の春の水
早蕨に遊ぶ小鳥や日の表て
紫の塵と晴れけり箱根越え

巴藤

貝殻に潮のしぶきや朝の梅
梅ヶ香や曉ゆめのさめやらず
探梅の知らて過ぎけり崇り塚
探梅の友に遠約の恨あり
探梅の徑は藁屋の背戸に入る
春寒むの籠に偲ぶ古梅かな
鏝箱の反古紙に母をなつかしむ
春泥や素足にさばく裾の梅